

News Letter

Number 23

日本獣医解剖学会報

April 1st, 2004

【今、私たちは何を主張すべきか？】

会長 山田純三(帯広畜産大学解剖学教室)

21世紀も年を重ね4年目になりました。小泉首相は「21世紀は改革の世紀だ」と声高に謳いあげ、遠山プランなる大学改革案も提示されました。しかし、なにもなかったかのように、ただ粛々と大学法人化が進行し、この4月から国立大学は大学法人となります。

チョット、思い出して見ましょうか。遠山プランの第1番目には、**国立大学の再編・統合を大胆に進める。**

- **各大学や分野ごとの状況を踏まえ再編・統合**
 - ・教員養成系など→規模の縮小・再編(地方移管等も検討)
 - ・単科大(医科大など)→他大学との統合等(同上)
 - ・県域を越えた大学・学部間の再編・統合 など
- **国立大学の数の大幅な削減を目指す → スクラップ・アンド・ビルドで活性化、とありました。**

これは大胆なプランでしたね。そうそう、もう1つありましたね。農学部長の先生方がまとめられ、文部科学省へ提出された「獣医学教育改善のための基本方針」です。これは私達が最低限許容できると考えたものでした。この1番目には

日本の獣医学教育組織の適正な規模:新教育研究組織の規模は、72名以上の教官から成ることが望ましいが、それが直ちに実現できない場合でも、当面これに準ずる規模としては、18名の教授を含む54名程度の教官から成る組織が必要最低限であろう、とありました。

現在、獣医学教育改善が文部科学省主催の「国立大学における獣医学教育に関する協議会」で検討されており、3月にはその結論が出るそうです。巷では、その結論が、18講座、教員36名という噂が流れています。BSE, SARSそしてトリインフルエンザと獣医学が重要視されているこの追い風の中で、獣医学教育が改善されないとしたら、もう悲劇です。もし、これが本当なら(デマと信じたい!),これが各界の専門家の方々が英知を集めて出される獣医学教育の将来像なのだろうか、と疑います。18講座・36名教員体制は教授1名と他1名の2名で講義・実習をこなさいということです。これで、獣医解剖学教育は改善されるのでしょうか?講座数がほぼ倍増されるから、獣医学教育は全体的に改善されると、短絡的に言えるのでしょうか?既存の講座は重要だからあるのです。この重要な講座が3名から2名体制に縮小されるのです。新設講座で教育分野を分担していただける講座はそれだけ負担が軽くなり、教員が3名から2名に削減されても何とか対応できるかもしれません。しかし、解剖学教育には新設講座で分担していただける分野はまったくありません。ですから、解剖学は肉眼解剖学を中心とする講座と、組織学を中心とする講座の2講座体制にならないと、獣医解剖学教育の改善は不可能と考え、このことを主張してきました。半年(1期)に講義1~2単位および実習1単位を担当するだけの講座と、1年(2期)を通して講義8単位および実習4単位を担当する講座とが、同じ数のスタッフというのは不条理です。私達は教育義務の少ない講座から人員を削減し、解剖を2講座にすべきだと主張するものではありません。18講座・36名教員体制という、その場凌ぎの単なる数合わせでは、獣医学教育の改善・充実が望めない、と主張したいのです。

世界で初めて、リヨンに獣医学校が設立された時の5人の教授席は、1)解剖学と外科学、2)薬物学と植物学、3)動物の外観と治療学、4)獣医病院長、5)鍛冶工場長(多分、装蹄学)だったそうです。多分、当時の解剖学は外科学と関連付けられて教育されたであろうことが想像されますが、その不十分さから、両者が早期に分離独立し、基礎と臨床の重要講座となったのです。

これから臨床解剖学という分野の開設が求められ、この分担が問題になることは明らかです。私はこの分野を決して否定するものではなく、臨床と協力して解剖学者が関与すべき分野であるとは思いますが、これは獣医解剖学にとって代わるものではなく、磐石の獣医解剖学教育の上に発展する形の臨床解剖学でなければならないと思います。私達は基礎を軽んじる風潮に毅然として解剖学の重要性を主張しなければなりません。それには私達の日々の講義・実習が獣医学徒の血となり肉となる重要なものと、学生から真に高く評価されねばなりません。非常に重い教育義務と高い水準の研究とが要求され、大変なことは十分判っておりますが、獣医解剖学教育に携わる会員各位の格別の精進と会員の各位のご支援をお願いします。獣医解剖学教育改善は我々の大命題なのです。

我々の学会は、本学会で発表される学生会員の参加費を学会で負担することを決め、学部学生対象の奨励賞も新設しました。学生会員の活発な参加を期待します。

(2004年3月1日記)

◇ 第137回 日本獣医学会 ◇

(2004年4月2日~4日)

会場:日本大学生物資源科学部

藤沢市の日本大学生物資源科学部 湘南校舎において3日間開催されます。獣医解剖学関連の講演は教育講演1題、シンポジウム4題、一般講演44題となっています。会員の皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

4月3日(土) 大講堂 (10:00-12:00)

The structure and function of mammalian skin.

I. The skin layers

II. Hairs, hair coat and skin glands

演者: Prof. Dr. Wilfried Meyer (ドイツ Hannover 獣医大)

座長: 月瀬 東 (日本大学)・金山 喜一 (日本大学)



〈シンポジウム〉

4月2日(金) 第2会場 (14:00-17:00)

「グライコバイオロジー — 形態と機能との接点 —」

座長: 谷口和之 (岩手大)、月瀬 東 (日大)

AS-01 硫酸基転移酵素の突然変異により生じた低硫酸化マウス

○平林義章 (名市大院・医学研究科・分子形態学)

AS-02 脳の形態形成および損傷修復とコンドロイチン硫酸プロテオグリカ

○大平教彦 (愛知県コロンニー・発達障害研・周生期学部)

AS-03 骨・軟骨の石灰化と複合糖質

○高城 稔 (日大・歯学部解剖学教室第1講座)

AS-04 Free sugars and mammalian skin defense

○Wilfried Meyer (Anatomical Institute, Veterinary School of Hannover)

〈一般講演〉

4月2日(金) 第2会場 演題番号 A-01~16 (9:00~11:40)

9:00~9:20 座長: 武藤順一郎 (北里大)

A-01 クロミンクジラ *Balaenoptera bonaerensis* の前腕骨の形成過程に関する組織学的研究 ○伊豆弥生¹、添田 聡¹、石川 創¹、森 陵¹、神谷新司¹、斎藤 徹¹、小高誠男¹、山野秀二¹ (日獣大・獣医解剖学教室、²日本鯨類研究所、³昭和大学・口腔解剖学教室、⁴日獣大・実験動物学教室、⁵昭和大学・口腔組織学教室)

A-02 ウマ浅指屈筋腱におけるコラーゲン細線維の分岐 ○渡辺敬文、保坂善真、植田弘美、竹花一成 (酪農大・獣医解剖)

9:20~9:40 座長: 橋本善春 (北大)

A-03 運動制限がウマの腱組織成熟に与える影響 ~腱線維径の分布様式の変化について~ ○笠嶋快周、上野孝範、桑野隆敏 (JRA・臨床医学研究室)

A-04 腱細胞へのデコリナンチセンスオリゴヌクレオチド遺伝子の導入効果

○保坂善真¹、桐澤力雄¹、真鍋直樹²、山本悦子³、渡辺敬文¹、尾浜紗知子¹、植田弘美¹、竹花一成¹ (酪農大・獣医解剖、²酪農大・獣医微生物、³酪農大・酪農学部・栄養学)

9:40~10:00 座長: 山田純三 (帯畜大)

A-05 プタ腸管上皮幹細胞株 (PIE細胞) に対するモノクローナル抗体作製と上皮細胞の分化機序の解析 ○木戸文友、麻生 久、渡辺康一、大和田修一、山口高弘 (東北大院・農・機能形態)

A-06 哺乳動物のグレリン産生細胞—マウス、ラットおよびハムスターの胃底について— 矢吹 映¹、小嶋敏慶¹、松元光春¹、○御船弘治²、児島将康³、上村亮三⁴、鈴木秀作⁵ (鹿児島大・農・家畜解剖、²久留米大・医・実験動物、³久留米大・分子生命科学・遺伝情報、⁴鹿児島大・生命科学・実験動物)

10:00~10:20 座長: 浅利昌男 (麻布大)

A-07 セイヨウナシ由来ポリフェノールによる抗胃潰瘍作用の組織学的評価 ○平松浩二¹、Frédéric Forest²、濱渦康範³、大島浩二⁴ (信州大・農・動物生体機構学教室、²信州大院・農・食料機能解析学講座)

A-08 Carnostat MesilateおよびStreptozotocin投与ラットにおける膵島内分泌細胞と介在導管上皮細胞の動態に関する形態学的研究 ○武藤順一郎、菅原 克、吉岡一機、倉本裕子、辻尾祐志、谷口和美、大野秀樹 (北里大・獣医畜産学部 獣医解剖学講座)

10:20~10:40 座長: 柴田秀史 (農工大) A-09 成熟マウスの肝臓におけるEphレセプターの発現 (続報) ○岡田法能¹、原田 樹¹、Elena Pasquale²、津山伸吾³、佐々木文彦⁴、小川和重⁵ (大阪府大・獣医解剖、²The Burnham Institute、³大阪府大・分子生物)

A-10 マウス肝臓発生における*Sax1*遺伝子の役割 ○永田 工¹、金井克晃¹、金井正美²、松井利康¹、的場章悟³、九郎丸正道¹、川上速人²、林 良博⁴ (東大・獣医解剖、²杏林大・医、³東大・国際動物資源科学)

10:40~10:50 座長: 松元光春 (鹿児島大)

A-11 胆管結紮によるラット肝線維症が甲状腺ホルモン受容体に及ぼす影響 ○吉岡一機、川野雅也、佐々木美也子、辻尾祐志、谷口和美、武藤順一郎 (北里大・獣医解剖)

10:50~11:10 座長: 福田勝洋 (名古屋大)

A-12 5/6腎臓摘出幼若期ラットの残存腎臓に対する蛋白摂取量の増減の影響: TGF-βの局在 ○三野将城、岡田利也、森岡宏至、森川嘉夫 (大阪府大・実験動物医学)

A-13 SAMPI/Kaマウスの尿管間質性腎炎モデルとしての有用性—尿管結紮モデルによる病態解析— ○矢吹 映¹、松元光春¹、上村亮三²、福山伸隆²、鈴木秀作³

(鹿児島大・農・家畜解剖、²鹿児島大・生命科学・実験動物)

11:10~11:30 座長: 九郎丸正道 (東大)

A-14 遺伝性腎疾患 (ICGN) マウスの腎糸球体基底膜構成成分lamininの異常について ○坂田千夏¹、山田 (内尾) こずえ²、山田 (山口) 美鈴¹、後藤康文¹、森 俊治¹、小倉淳郎³、山本美江²、眞鍋 昇¹ (京大院農・生体機構学研究室、²感染研・獣医科学、³理研・バイオリソースセンター)

A-15 高感度in situ hybridization法によるerythropoietin産生細胞の検出 ○山田 (山口) 美鈴¹、後藤康文¹、森 俊治¹、坂田千夏¹、阿南小百合¹、永尾雅哉²、小倉淳郎³、山本美江⁴、眞鍋 昇¹ (京大院農・生体機構学、²京大院生命科学、³理研バイオリソースセンター、⁴感染研・獣医科学)

11:30~11:40 座長: 山本雅子 (麻布大)

A-16 Thyroxine投与ラットにおける甲状腺濾胞上皮細胞の形態学的研究 ○辻尾祐志、桑田 愛、高田祥子、平澤由紀子、佐々木美也子、吉岡一機、谷口和美、武藤順一郎 (北里大・獣医解剖)

4月3日(土) 第2会場 演題番号 A-17~28 (15:00~17:00)

15:00~15:20 座長: 眞鍋 昇 (京大)

A-17 MFG-E8タンパクのEGFおよびdiscoidinドメインによるマウス胎仔生殖腺細胞への接着能解析と接着細胞の同定 ○石井万幾¹、金井克晃¹、金井正美²、田島陽一¹、佐藤 剛¹、平松竜司¹、松井利康¹、九郎丸正道¹、佐内 豊⁴、林 良博⁵ (東大・獣医解剖、²東大・国際動物資源科学、³杏林大・医・解剖、⁴都臨床研)

A-18 胎生期生殖腺の性分化過程におけるエピジェネティック機構の解析 ○水上拓郎¹、金井克晃¹、金井正美²、藤澤正彦³、九郎丸正道¹、林 良博⁴ (東大・獣医解剖、²東大・国際動物、³杏林大学・医・解剖)

15:20~15:40 座長: 昆 泰寛 (北大)

A-19 マウス性分化初期における*Sry*遺伝子の量依存的*Sax3*発現の制御 ○城所知秀¹、金井克晃¹、的場章悟¹、平松竜司¹、十文字洋子¹、藤澤正彦²、金井正美²、九郎丸正道¹、多屋長治³、米川博通⁴、林 良博⁵ (東大・獣医解剖、²杏林大・医、³(財)東京都臨床研・実験動物、⁴東大・農業国際)

A-20 雄生殖幹細胞移植によるXX*Sry*セルトリ細胞の精子発生支持能力の検討 ○立和名剛司¹、金井克晃¹、城所知秀¹、水上拓郎¹、石井万幾¹、松井利康¹、佐藤 剛¹、的場章悟¹、金井正美²、九郎丸正道¹、林 良博³ (東大・獣医解剖、²杏林大・医・解剖、³東大・国際動物資源科学)

15:40~16:00 座長: 萬場光一 (山口大)

A-21 アンチセンスエクソヌクレアーゼ1遺伝子導入マウスの作出 ○昆 泰寛¹、並木由佳²、佐々木宣哉²、浅野 淳³、安居院高志⁴、今野明弘⁵、橋本善春⁶、遠藤大二³ (北大・獣医解剖、²北大・獣医実験動物、³酪農大・獣医放射線)

A-22 ネコの尿道球腺上皮における複合糖質の組織細胞化学的研究 ○坂入 旭、月瀬 東 (日大・獣医解剖)

16:00~16:10 座長: 佐藤英明 (東北大)

A-23 加齢F344/N♀ラットの卵巣所見 ○田中 慎、曾根啓子、山本 (澤村) 貴子、宮石 理 (長寿研・共同利用室)

16:10~16:30 座長: 木曾康郎 (山口大)

A-24 マウス黄体退化にともなう免疫系細胞とサイトカインの局在の推移 ○眞鍋 昇、小松祐司、後藤康文、島辺宗健、木曾美奈子 (京都大学・農学研究科)

A-25 プタ卵胞閉鎖にともなうTNFとその受容体family mRNA発現量と局在の推移 ○井上直子¹、中山瑞穂¹、前田晃央¹、程 圓¹、吉岡亮介¹、松田二子²、眞鍋 昇¹ (京大院・農・生体機構、²東大・獣医)

16:30~16:50 座長: 有嶋和義 (麻布大)

A-26 マウス子宮における非妊娠から着床期にかけてのIL-6receptor mRNAの局在 ○加藤かほり¹、本道栄一¹、前田 健²、木曾康郎³ (山口大・家畜解剖学講座、²山口大・家畜微生物学講座)

A-27 モルモット胎盤における母体血管構築 ○村瀬清崇、川上哲司、本道栄一、木曾康郎 (山口大・家畜解剖学講座)

16:50~17:00 座長: 谷口和之 (岩手大)

A-28 獣医肉眼解剖学教育用ソフトウェアの検討 -Virtual Canine Anatomy- ○
橋本善春¹、山田純三² (1北大・獣医学研究科解剖学教室、²帯畜大・家畜解剖学講座)

4月4日(日) 第2会場 演題番号 A-29-44 (9:00-11:40)

9:00-9:10 座長:村上隆之(宮崎大)

A-29 成熟マウスの心臓におけるEphレセプターの発現 ○原田 樹¹、岡田法能¹、
Elena Pasquale²、津山伸吾³、佐々木文彦¹、小川和重¹ (1大阪府大・獣医解剖、²The
Burnham Institute、³大阪府大・分子生物)

9:10-9:30 座長:内藤順平(帝京科学大)

A-30 マウスの肺と骨髄で認められたエオジン好性の針状結晶-キチナーゼファミ
リ-蛋白Ymlとの関連性- ○仁尾純子¹、今野明弘¹、橋本善春²、大橋 眞²、
昆 泰寛³、岩永敏彦⁴ (1北大・院獣医解剖学教室、²徳島大学・総合科学部 生命
システムコース、³北大・大学院医学研究科 組織細胞学分野)

A-31 Gicerin, a cell adhesion molecule, promotes the metastasis of lymphoma cell of the
chicken ○土屋成一朗、平 英一、広井 聡、佐々木文彦、塚本康浩(大阪府大・
獣医解剖学研究室)

9:30-9:50 座長:上原正人(鳥取大)

A-32 ラット視床前核群および背外側核への前頭葉からの投射 ○柴田秀史(農
工大・農学部家畜解剖)

A-33 上位神経核から顔面神経核への入力経路に関する解剖学的検討 ○古谷
累¹、北 一郎² (1東京都立大・院・理、²東京都立大・院・理)

9:50-10:10 座長:北川 浩(神戸大)

A-34 発情休止期のメスラットにおけるオス拒否行動時の脳内活性領域 ○西村
一路、渡辺真宏、青山真人、杉田昭栄(宇都宮大院・機能形態)

A-35 ヒヨコ視蓋のI層細胞の形態学的特徴とその神経投射 ○胡 満¹、内藤順平²
(1名古屋大学・生命農学研究科、²帝京科学大・アニマルサイエンス学科)

10:10-10:30 座長:杉田昭栄(宇都宮大)

A-36 The number of Purkinje cells and inferior olivary neurons in the chicken ○Rashed
Reda、今川智敬、上原正人(鳥取大・獣医解剖学教室)

A-37 L-セリン合成酵素3-PGDHおよびセリン輸送分子(中性アミノ酸トランスポ
ーターASCT1)のマウス非中枢神経組織における局在 ○太田喜章¹、定本圭弘¹、今
野明弘²、橋本善春³、岩永敏彦⁴、昆 泰寛⁵ (1北大・獣医解剖、²北大・医解剖)

10:30-10:50 座長:佐々木文彦(大阪府大)

A-38 マウス非神経組織におけるセロトニントランスポーター(SERT)および小胞
膜モノアミントランスポーター2(VMAT2)の局在 ○斉藤妙子¹、今野明弘²、橋本
善春³、岩永敏彦⁴、昆 泰寛⁵ (1北大・獣医解剖、²北大・医解剖)

A-39 マツカワの嗅上皮におけるPGP9.5の分布 ○森 命¹、山本欣郎²、天野勝文³、
山森邦夫⁴、山野目 健⁵、斉藤正一郎⁶、谷口和之⁷ (1岩手大・獣医解剖、²北里
大・水産・魚類生理学、³岩手県水産技術センター、⁴愛媛大・医・第一解剖)

10:50-11:10 座長:竹花一成(酪農大)

A-40 イヌの肛門周囲腺のレクチン組織化学 ○谷口和美、志保津伸樹、吉岡一機、
辻尾祐志、佐々木美也子、武藤順一郎(北里大・獣医解剖)

A-41 アライグマ指球におけるパチニ小体の微細構造と複合糖質の局在 ○安井
禎¹、月瀬 東²、Wilfried Meyer³ (1日大・獣医解剖、²Hannover獣医大)

11:10-11:20 座長:北村延夫(帯畜大)

A-42 鶏冠における洞様毛細血管の機能形態 ○佐々木美也子、丸山ゆき、吉岡
一機、辻尾祐志、谷口和美、武藤順一郎(北里大・獣医解剖)

11:20-11:30 座長:植田辰夫(島根医大)

A-43 心臓および消化器の左右非対称性形成におけるactivin receptor-like kinase 8
の関与 ○東 克士、寺岡宏樹、平間龍一、董 武、平賀武夫(酪農大・獣医・
毒学)

11:30-11:40 座長:植田弘美(酪農大)

A-44 ラットにおける低分子キトサンの安全性試験 ○植田辰夫¹、竹内崇師²、安
食 隆³、吉川貞樹⁴、小村洋司⁵ (1島根医大・総科研センター実験動物、²山陰建設

工業(株)・バイオ事業部)

【日本獣医解剖学会理事会】

日本獣医解剖学会理事会 4月3日14時~15時、第10会場(本館6階)
理事の先生方は時間厳守でお集まりください。

【日本獣医解剖学会総会】時間厳守で御参集を!

日本獣医解剖学会総会 4月4日12時~12時30分、第2会場(資料館4階)
議題(理事会と総会は同じ議題について審議します。)

- 議題 1. 平成15年度会計報告
2. 平成16年度活動方針
3. 名簿作成に当たっての会員確認のための登録について
4. 準会員の会費について
5. その他

- 報告 1. 第136回日本獣医学会学術集会について
2. その他

【獣医解剖学会懇親会】

“春宵一刻値千金”桜もまだ咲いていてくれるかと思えます。夕食を兼ね
て、是非ご参加くださいますようご案内申し上げます。

日時:4月3日(土) 17:30~19:00

場所:日本大学生物資源科学部 本館ガレリア階

会費:一般会員 3,000円

学生会員 2,000円

(当日懇親会場受付にてお支払い下さい。)

◎ 日本獣医解剖学会奨励賞第11号 ◎

昨年10月、青森市文化会館で開催された第136回日本獣医学会での学
会発表において慎重に審査の結果、下記のとおり決定されましたのでご
案内します。(総会の席で表彰予定です)

受賞者:酪農学園大学 獣医解剖学 大学院

山本 悦子さん

受賞対象演題:

ウマ浅指屈筋腱と深指屈筋腱の形態学および生化学性状の比較
山本さん、おめでとうございます! 今後のご発展を期待します。

【日本獣医学会の次期理事に獣医解剖から3名選出】

先の日本獣医学会理事の選挙の結果が、3月1日の理事会で報告され、
我々の学会から谷口和之、林良博、山田純三(あいうえお順)の3名が選出
されました。これまでは林先生と山田の2名でしたが、新年度から3名となりま
す。これは他の分科会の方々の投票率の低さも原因ですが、解剖の会員
の方々の意識の高さによるものと思います。我々3人は解剖のことを念頭に
置きながら、獣医学会全体の活性化および発展に寄与せねばなりません。
皆様のご支援をよろしくお願いします。(山田純三)

【学部生対象の奨励賞の新設について】

昨年秋の総会で奨励賞選考内規が改正され、奨励賞に学部生部門が新
設されました。これは、我々の学会の活性化を狙ったもので、筆頭発表者の
学生会員に学会参加費を学会が支援する施策と一体のものです。学会の
活性化は正会員の精進によることは当然ですが、学生会員の活発な学会活
動を支援・奨励し、学会の活性化に繋げたいとの理事会の強い希望によっ
て実現したものです。学生会員の皆様の積極的な学会への参加と奨励賞へ

